

● CT、MRIにおける静脈路確保、 抜針の取り組み

埼玉県済生会川口総合病院 放射線技術科 | 城處洋輔

診療放射線技師法の改正により、新たに静脈路確保業務が追加された。当院ではCT、MRI、RI検査において診療放射線技師による静脈路確保業務を推進していくこととした。ただし、実際に業務を行うためには環境整備や教育研修プログラムの構築が必要である。本稿では、当院で行った環境整備から教育研修、安全管理、現状と課題などを紹介し、これから静脈路確保業務を行う施設への参考として頂くことを目的とする。

The radiological technologist law was revised, and the task of securing an intravenous line was added. At our hospital, we decided to promote the work of securing intravenous line by radiological technologists for CT, MRI, and RI. However, in order to actually carry out the work, it is necessary to improve the environment and establish an education and training program. In this paper, we will introduce the environmental improvement, education and training, safety management, current situation and issues at our hospital, with the aim of providing a reference for facilities that will work to secure intravenous line in the future.

● はじめに

当院では各モダリティに看護師が配置されているため、現状のCTにおいては看護師が来るまで待機するなどの業務遅延は生じていなかった(MRIでは看護師不在の時間や、造影検査が連続する時間帯で業務遅延が生じていた)。しかし、静脈路確保から抜針を実施する目的で診療放射線技師を増員できれば、業務の効率化を図ることができる。例えばCTにおいては静脈路確保業務を行っていないときはワークステーションなどの画像処理や他の業務を行うことができ、更には人員増により研修などの教育も行い易くなることなども考慮し、静脈路確保業務におけるタスク・シフト／シェアを推進していく事とした。

● 導入準備

まず、当科の管理職会議にて静脈路確保業務を診療放射線技師が行う方針を決定したが、ここで問題となったのは、全員がこの業務をできるようにするかという点であった。法改正以前に診療放射線技師となった中には、「静脈路確保をしないから」、「穿刺行為が苦手」などの理由から診療放射線技師を選んだ技師もいるため、当科ではそのような診療放射線技師に対しては人事評価とは関係なく免除することとした。また、静脈路確保業務を行う診療放射線技師は様々なリスクを負うこととなるため、安全体制をしっかり整備することを前提として、科内の責任者や全体会議にて説明し推進していくこととした。

当科以外へのアプローチとしては、まず放射線科医へ新たな業務におけるサポート体制を受諾頂き、看護部(看護部長や外来看護師長)へ教育研修の実施や業務におけるフォローを依頼した。その後、病院長には合理的な業務分担において説明した上で、医師看護師業務改善委員会へ提案したことで院内での方針が決定した。

● 実施モダリティと 人員配置

静脈路確保業務を行うモダリティはCT、MRI、RIを予定している。CTは3台で1日当たり90~110件であり、そのうち造影は2割程度を占める。診療放射線技師は装置1台に1人ついて、余裕があるときはワークステーション要員としてもう1人配置している。看護師も装置1台につき1人ついて、さらに別室で造影検査の